

11 パレスチナ問題を若者たちと語り合いましょう

○開催目的

1 概要： 1948年のイスラエル建国以来、住む土地を奪われ、特に封鎖の厳しいガザ地区で難民生活を余儀なくされているパレスチナの方々の苦しみを知り、私達ができること、特にどうすれば、現地の情報を他の方々に伝えやすくなるのかについて語り合います。

(さまざまな理由により、故郷を奪われたという共通点をもつ沖縄、福島、在日の青年の方々にも対話に加わっていただきます)

2 目的：

1) パレスチナ、沖縄、福島、在日に関わる方々の共通の課題は、各々の問題が、それらと関わりのない方達に伝わりにくいことにあります。また、関わりのない方達の無関心さにあります。そこで、本分科会では、互いに、自らが、どのような行動を取れば問題が伝えやすくなるかについて、立場の違う方達が集まり小グループを作り、討議を行います。

その行為を通して、参加者各自が今後の活動のヒントを掴んでいただきます。

2) さらに、立場の違う方々が交流し、新たな人間関係を構築する機会とします。

○開催日時

2月13日(土) 14:30 ~ 17:00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：32名(参加者24名、出演者4名、スタッフ4名)

出演者・団体：

田中 好子さん(認定NPO法人パレスチナ子どもキャンペーン 事務局長)

工藤 早苗さん(学生)

佐藤 宏美さん(一般社団法人ふくしま連携復興センター)

李匡 舜さん(在日本朝鮮留学生同盟)

○プログラム内容・成果と課題

1) 内容

趣旨説明 中川 径治 (諸注意事項を含む)

現状説明 沖縄・・・工藤 早苗さん

福島・・・佐藤 宏美さん

在日・・・李匡 舜さん

基調報告 パレスチナ・・・田中 好子さん

グループ討議	「どうすれば国内諸問題を他の方々に伝えられるか」
グループ発表	各4グループから
総括	田中 好子さん
挨拶	中川 径治
交流	18歳の高校生から60歳代のご婦人まで、沖縄、福島、在日関連の方々、そしてパレスチナを支援される方々で27名の参加者が集い、感動のイベントを行うことができました。

2) 成果と課題

立場が異なる方たちがあつまり、共通課題（どのように情報を伝えるか）を話し合いましたが、グループ発表では、4グループ中、3グループが「(一対一の対話)」、そして最後の1グループが「SNSを活用した情報伝達」という発表内容でした。20代から30代という若い世代が中心に集まった分科会でしたが、情報伝達のキーとして「対話」を第一に挙げている点が注目すべき内容です。

在日、福島、沖縄、パレスチナに関わる今回の参加者は、従来、互いに交流の無かった方々ですが、あえて、同じテーブルについていただき、共通テーマで討議をした時に、図らずも「対話」が大事との結論に至り、さらに、イベント終了後も、交流をし、なかなか帰路につかない方々も随分といました。迂遠の道に見えても、課題解決には、結局は「対話」という地道な道を実感していただいたと思います。

しかし、今回のイベントはゴールではなく、参加者同士の情報交流ができる仕組み（ゆるいネットワークづくり）が必要と思われるので、それを今後の課題として進めていきたいと思いました。

○参加者の声

- とても素敵な会でした。すてきな若い方々とか、ほんとに多種多様な立場の方々がいらして・・・東京でのボランティア活動、市民活動に対して結構ななめ目線だったのですが、見方が変わりました。今後とも、何かしら関わらせていただけたらうれしいです。

(都内任意団体会長から)

- 本日はお招きいただきありがとうございました。大変有意義な時間を過ごすことができました。日々お忙しい中であのような企画を作り、しかも30人もの応募を集めてしまう実行委員の皆様のパイタリティにはただただ脱帽します。また何かあれば、私の能力の範囲で力になろうと思っています。その際にはぜひお声かけ下さい。

(パレスチナ関連インカレ団体元代表から)

- いろいろな背景を持つ方々とお話ができ、考えさせられることもたくさんありました。非常に有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

(パレスチナの大学留学経験者から)

- ・貴重な場に招いていただき感謝しています。また機会があれば一緒できればと思います。（在日団体の方から）

○担当者・記録

- 《担当》 中川 径治（NEC ネットエスアイ株式会社）
山本 智子（認定 NPO 法人パレスチナ子どものキャンペーン）
- 《運営サポート》 柴田 健次（東京都社会福祉協議会）
- 《記録》 中川 径治（NEC ネットエスアイ株式会社）
鹿住 貴之（認定 NPO 法人 JUON（樹恩）NETWORK）

